

大隅ゼミ参加者 募集！



2011/12/21 大隅ゼミ忘年会

学部生を対象に大隅ゼミを開講しています。研究に興味のある人、最新の科学論文を読みたい人、最先端の研究の世界に触れてみたい人が有志で参加しており、**月1回程度**実施しております。

毎回のゼミを通して、

- 1) 基本的な知識や実験技術を学ぶ
- 2) 科学論文の批判的な読み方を習得する
- 3) 最先端の研究の世界に触れる
- 4) 情報収集能力を身につける
- 5) プレゼンテーション技術を磨くことが目標です。

発生発達神経科学分野の**大隅典子教授**が指導に当たって下さいます。

＜これまでに読んだ論文の1例＞

Takahashi, K., and Yamanaka, S. (2006). Induction of pluripotent stem cells from mouse embryonic and adult fibroblast cultures by defined factors. *Cell* 126, 663-676.

マウス線維芽細胞に山中因子(klf4, Sox2, c-myc, Oct4)を遺伝子導入することにより、多能性幹細胞であるiPS細胞の樹立に成功したという論文。京都大学の山中教授のグループによる研究成果です。

<大隅ゼミ Q & A>

Q1 科学論文を読むなんて、私にできるかな？

誰しも、「論文を読んだことがないけど、ついていけるかな？」と心配になるかと思いますが、そういう心配は無用です。現在参加しているメンバーは皆、大隅ゼミで初めて論文を読みました。**現時点での医学的知識や論文を読んだ経験は問いません。**

Q2 医学部は普段の勉強が大変そう。ゼミに参加する時間なんてあるかなあ。

ゼミは原則的に月1回程度実施しています。1回のゼミは1～2時間程度で、学業への負担はほとんどないかと思います。また、**各回の参加は自由**としておりますので、試験勉強が忙しいとき、運動部が忙しいときは欠席しても構いません。

Q3 英語の論文ですか？

大隅ゼミで読む論文はすべて英語です。現在、生命科学系の原著論文を日本語で出す研究者は皆無と言ってよいでしょう。東北大学医学部入学者が**英語力を気にする必要はありません**。専門用語は覚えなないといけませんが、1年も論文を読んでいれば慣れてくると思います。

Q4 論文を読めるようになるのでしょうか？

最初のうちは苦労するかもしれません。ただ、**大隅ゼミ参加者はおおむね1年程度で、論文をよみこなし、論文の内容をゼミの参加者に発表できるレベルになっています。**

Q5 ゼミは聴講だけでも良いのでしょうか？

見学は随時受け付けておりますので、見学のときには聴講だけで構いません。しかし、ゼミに正式に参加する場合には、「聴講のみ」の参加は認めていません。

「論文を発表できるレベルまで読み込む」という経験をすることで、論文を読み方をきちんと習得できるようになります。ですので、**参加者には必ず発表のラウンドに入ってもらっています**。なお、発表は年に1～2回程度です。発表担当に当たったときには、かなり念入りな準備が必要ですが、試験や運動部の大会の時以外の、時間に余裕のあるときに、発表担当になってもらっています。

Q6 どういう論文を読むのですか？

原則的には、発表する論文のテーマは、発表担当者に委ねています。これまでは、基礎医学系の論文だけでしたが、臨床系の論文でも構いません。

ただ、論文を選ぶうえで「発表して聴いてもらう価値のある」論文を選ぶようにしてもらっています。せっかくみんなを集めて自分の発表を聴いてもらう訳ですから、その価値のある論文でないと、時間の無駄遣いになってしまいますからね。

連絡先

富田真吾(医学部5年、a8mb1058@st.med.tohoku.ac.jp)

高橋揚子(医学部2年、b1mb1066@s.tohoku.ac.jp)

※大隅ゼミHP <http://www.dev-neurobio.med.tohoku.ac.jp/ja/?cat=42>